

当たる!

広報クイズ(21)

応募の方法は...

はがきに答えの記号(例①-A)、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。

○あて先 〒950-112 白根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係
○締め切り 十二月十五日(日)必着のこと
○抽選 十二月十七日(月)に市役所に来られた人に抽選していた
○発表 一月一日号

今月の問題は...

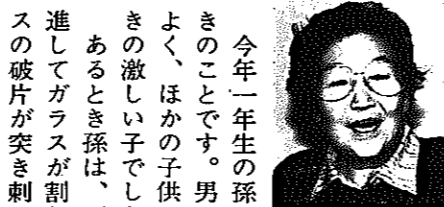
- ①カルチャーセンターで、あるスポーツの国際大会が開かれます。そのスポーツは何でしょう?
- A 卓球
B バスケットボール
C バレーボール
(ヒント14ページ)
- ②新町乙の渡辺信子さん。珍しい花を育てています。夜、二、三時間しか開花しないというこの花の名前は?
- A コチョウラン
B コブシ
C 月下美人
(ヒント10ページ)
- ③天ぷらなべから火がノ。絶対にはいけないことは?
- A バケツで水を掛ける
B ぬらしたシーツをなべに覆うようにかける
C 消火器で消す
(ヒント12ページ)

当選おめでとう! (敬称略)

- ▶図書券 小林可奈(東町) 斎藤穂積(七軒)
渡辺春江(茨曾根) 薄田宏(七軒) 関根春美(茨曾根)
- ▶県立自然科学館招待券 長谷部愛(南新町)
石倉涼(和泉) はせ川きょう子(日の出町)
- ▶のど自慢ゲスト色紙 早藤新一(白井) 山崎あすか(下道湯) 大谷チイ(東町) 西村利広(鍋湯) 西方智美(十五間) 内山ト(和泉) 池浦文(上塩俣) 小池清美(茨曾根) 大野将史(戸頭) 小林夏子(川前乙) 山田裕介(上下諏訪木) 鈴木美知子(みの口) 星野豊(鯉湯) 丸山泰介(下木山) 生野秀行(和泉)



11月21日に市役所に来られた高橋明子さん(小須戸町)に抽選していただきました。先月号の正解は①C②B③Aでした。応募総数は71通で、そのうち正解は69通でした。



見知らぬ人の親切 今も忘れぬ感謝の心

滝沢トシさん(白新町・無職・六十二歳)

今年一年生の孫の、小さいときのことです。男の子で元気がよく、ほかの子供の何倍も、動きの激しい子でした。

あるとき孫は、ガラス戸に突進してガラスが割れ、額にガラスの破片が突き刺さる大けがを

うに走れませんでした。気がかり焦って、のろのろとしか進まず困っていると、傍らへスリットと乗用車が止まりました。中から四十歳くらいの男の人が降りてこられ、「見ればけがをしているようだが、乗りなさい」と親切に言ってくれました。「地獄で仏」とはこのことです。ありがたく外科医まで乗せていただきました。お札もそこそこに縫合手術をして

もらい、ほっとしたのです。急いでいたので、うかつなことに名前も聞かずじまいでしたが、本当にあのときは、名も知らぬ人の思われぬ親切に、涙の流れる思いでした。今でも時々、孫の額の傷跡を見る度に思い出し、心の中で感謝しております。

自分でも人に対してかくありたいものと心掛けております。

市民談話室

原稿募集

1月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係(☎373-2111④333)です。



花を楽しむ

月下美人を咲かせて

渡辺信子さん(新町乙・会社員・四十三歳)

四十歳代という、多少なりとも自分の時間を得ることができる年齢ではないでしょうか。私も五、六年くらい前から花好きの友達の影響もあって、花木、鉢物、生け花と興味を持ち、現在も楽しんでます。

以前、東京の姉から幻の花といわれている純白月下美人を分けてもらいました。NHKの趣味の園芸を見てメモを取り、育てた効果があつて、去年、今年



四季のにおい 自然の変化を体で感じ取って

秋山健吾さん(鯉湯1丁目・会社員・三十三歳)

と、夏の夜を美しく彩り、香り高い花を咲かせてくれたのです。友達を呼び、写真を撮って喜びを分け合いました。残念なのは花の命が短く、二、三時間ぐらしか開花してくれないこと。

最近の花はバイオテクノロジーでいろいろ改良されていますが、やはり私は昔ながらの自然の花が一番好きです。特に春の山で一番に咲き誇るコブシの花。くつきりと白く、戸惑いや濁り

先日、ラジオを聞いていたら「空気にはにおいがある」という話をしていた。このとき自分でイメージする空気のおいについて考えてみた。冬はカチンカチンに凍った朝のカナ臭い

そんな自然の花を愛する清らかな心を持ち続け、残りの人生をときには主人と旅に出るなど、楽しく暮らしていけたらと思っております。

祖父の病気に

兄弟の助け合いに感謝

石倉あき子さん(戸石・農業・四十三歳)



私の家は兼業農家でみんなが勤めに出ているため、昼は七十七歳の祖父が留守番をしてくれています。その祖父が病気になるまで一年半になります。

月一回、ガンセンター病院へ長男、次男、三男が三人交替で病院へ連れていってくれます。長男の嫁である私は、実家の面倒を見てくれる弟たちに、感謝の気持ちでいっぱいです。

近くに住む分家の弟夫婦は、祖父が町へ買い物に行くにも、すぐ飛んできて車の運転をして

くれ、私たちは本当に大助かりです。すぐ近くに分家があるとすることは、実家として本当にありがたい心強いもので、頼りにしています。私は長男の嫁として、いつまでもこの主人の兄弟たちと仲よく何事も相談したい、助け合いの精神で生きていきたいと思えます。

私には二歳の息子がいるが、時間があればなるべく散歩に連れていくようにしている。それというのややはり、四季の自然の変化を体で感じ取れるような広い心を持つ人間に育ってほしいと思うからである。こんなに素晴らしい土地に生まれたのだから。ラジオを聞きながら、ふと、こんなことを思ったのである。

市民文芸

- 川柳
- 坂口を詰め合う友は裏切らぬ 吉川 彰
ヘソクリが出番待ってるジャンボク 米野 光雄
太陽が柿へ甘みをプレゼント 荒木 イマ
減反田で冬の葉山子が首を吊る 今井 七郎
縫い糸がほころびていく反抗期 織田 セツ
出世より困らん運ぶ親であり 後藤マサノ
調子良い言葉にひそむ畏がある 佐藤トミノ
ハンドルを睡魔にとられた罪一つ 佐藤 ヨキ
拝啓は二人の仲に要らぬ文字 高橋祐四雄
独り者足で押さえて釘付け 竹石 甚五
焼酎に酔った浜柿見直され 田中 成子
森林が火傷している酸性雨 田村 恒夫
亡き母に逢える夜もある夢の中 時田 良子
おふくろの涙に勝てるものがない 長井 徳市
金余り日本で冷えた社会鍋 中村 尚治
腸に友の助言が沁みてくる 西条 ムラ
減量を秋の味覚が邪魔をする 早川 英男

- 俳句
- パーゲンの卵に敵のない安値 山岡 フミ
車間距離守って長いお付き合ひ 本間 雪江
- 紫蘇しごく日溜りに来て話しこむ 山田 孝
固き実の柘榴ひたすら熟すこと 古川 綾
子が部屋にこもりしあとの夜長かな 堀内ナナ子
竜胆の花に染るるばかりの陽 公条 雪夫
ていねいに籠にかけし菊の土 猪股 南魚
菊びたしありて男の機嫌よし 小林 光子
暮らしたる妻との月日菊日和 安沢 飛浪
朝まだき菊の花摘む指白し 木村 トリ
面影を重ね形見の秋袷 和泉 伸子
着せ終へし菊人形の陣羽織 成沢 素明
古井の水に写りし金木犀 (以上大風会) 玉木 長吉

短歌

- 此の世代刻々として変われども 四季をりをりの花は変わらじ 小出熊四郎
時折に時雨の中を三面の 勢う漁夫の掛け声揃う 中村 京
老いてかわねぬ夜半の多かりて 昔恋しき花の咲くころ 小出よし